

「主の教会の一致を保つ」

エペソ4：2，3

堀田修一 24・10・13

I 先行する神の恵みをいつも覚え感謝したい。本日の御言葉の前に神のあふれる恵みがある。神ご自身が、私達に対して「謙遜と柔和の限りを尽くし、私達に寛容を示し、愛をもって忍び、私達の罪を赦し、主の十字架の和解の平和の絆で、不一致でバラバラの私達を主と結びお互いを結び、主の体である教会に加え、御霊なる神による一致を与えて下さった」。この先行する神の恵みを心から感謝したい。

II 先行する神の驚くべき恵みを受けての私達の応答。

1. 御霊の一致とは違う一致。①相性の一致。②好みの一致。③民族的一致。④聖書の教理、御言葉の教えを無視した一致。

2. 御霊の一致とは。①主を信じる私達の心に内住されている御霊なる神のみが産み出し、創造される一致。ですから「御霊の」一致と言われ、また一致を「作りなさい」と言われず、「保ちなさい」と言われる。私達は、御霊の一致を作り出す事はできない。御霊が、すでに主にある一致を生み出し創造し与えておられる。その一致を熱心に保つ事が私達の分。②御霊の一致、教会の一致の土台は、先に述べられたエペソ1-3章の御言葉、教理、神の恵み。この順序が大切。御言葉の正しい理解、教理、神の先行する恵みなしに、真の一致はない。真の一致を産み出し創造される御霊なる神の最大の御使命は、みことばの真理を私達の心に教えて下さる事(1:17)。

3. 御霊の一致を妨害するもの。①悪魔は教会に間違った教えを入れたり、教会員同志を争わせ分裂させようとする。気を付けて、目を覚まして祈りたい。みことばを正しく学び続けたい。6:10-18。②主と主の御言葉につくのではなく、人につく分派。『私はパウロにつく』と言えば、別の人には『私はアポロに』と言う」(Iコリ3:4)。人につかず、主とみことばにしっかり結びついて、主を間においた交わりをする人は幸い。③祈りつつ、愛をもって真実に当の本人に話すのではなく、他の人々に悪口、陰口として言いふらしてしまう。事の真実は曲げられ、色々な人々の思い、感情、解釈が加わり、真実から、かけ離れたものとなる。自分が、そうされたい。私に、まず、話してくれたら良かったのに」と思う。真実な「対話」をするなら謝る事も事情を説明する事も出来る。神に祈り、導きを求め、聖なる勇気と真実な愛をいただき、他の人に言いふらすのではなく、時と場所を求め、本人と交わるなら幸い。その交わりの中におられる主は和解、成長を与えてくださる！「互いに悪口を言い合ってははいけません」(ヤコブ4:11)。「あなたがたは偽りを捨て、おのおの隣人に対して真実を語りなさい」4:25。

III 御霊の一致を保つために。

1. 「御霊の一致」は、私達が作れるものではなく、すでに御霊により与えられている事を確認したい。

2. 御霊の一致の土台は、不動のみことば、正しい教理、先行する神の救いの恵みである事を感謝したい。1-3章。ローマ1-11章。

3. 教会、自分達の正しい理解、認識。教会（私達）は、完全な人々の集まりではなく、罪、弱さ、欠点の多い者の集まり。主の姿に変えられつつある、まだ途上の者の集まり。新約聖書に出て来る教会を見てみると、皆、問題、罪、戦いのある教会。だからこそ、パウロは、手紙（励まし、警告、注意）を書く必要があった。神は、私達が完全になったら愛すると言われるのではなく、不完全な教会（私達）を愛し、育て、主の御姿に変え続けて下さっている現在進行中。

4. 罪、弱さ、欠点、失敗の多いお互いである故に、本日の御言葉が必要。教会が完全な人々の集まりなら、互いに赦し合い、忍び合う必要はない。「謙遜と柔和の限りを尽くし」。「謙遜」=自分の無力さを真に認め、神に心から抛り頼むへりくだり。神の恵みがなければ、とっくに滅んでいる事を認め感謝する心。神は、御聖霊と御言葉で私達に罪を示し、失敗や物事がうまくいかない事を通して、へりくだらされ、人々に優しく接する人に変えられる。主と人々と教会に仕える心。弟子たちの足を洗われた主からいただく謙遜。反省し、悔い、主に頼り、生活を改める心。明確な御言葉に従う。御言葉に記されていない細かな事で、自分のやり方を相手に押し付けない。祈りつつお互い語り合い聞き合い、事を決めて行く。相手の言い分を「聞く」事と自分が「語る」事のバランスのある心。健全なコミュニケーションを持てる心。「柔和」=心の内の穏やかさ、優しさ。神にすべてを委ね、自分の願いと違う事も、受け入れる備えがある心。意見が合わない人にも優しく、良く忍び、接していく徳。これも私達が自分で生み出せるものではなく、内住の御霊なる神が生み出して下さる実（ガラテヤ5：23）。「限りを尽くし」=どこにいても、いつでも、どんな人、忍耐させられる人にも、出来る限り謙遜と柔和を尽くす。それは、自分の頑張りでは無理。謙遜と柔和の主に抛り頼もう！「寛容を示し」=寛容は、短気ではなく、相手を見て「長く苦しむ」（寛容の原語の意）事があっても、気持ちを切らさず共に歩む。それが、寛容な主が、罪と欠点の多い私達に今日まで示し続けられている愛、寛容。感謝します！いろいろな人々と接しなければならぬ時がある。つらい時、思い起こしたい。主が今日まで、どんなに欠けだらけの私達に寛容であられたかを。主の寛容がなければとっくに滅んでいることを！私達と私達にとって難しい人の両方を主は愛しておられる事を。主につながり寛容（自力では無理→御霊の実。ガラ5：22）を示せますように。「愛をもって互いに忍び合い」。主から愛をいただいて、互いに忍び合う。片方だけでなく、互いに。「忍び合う」とは、自分の力で我慢し、心で恨み、いつか爆発する事とは違う。互いに支配しない、支配されない。互いに語り、互いに聞く（気持ちも）。互いに努力しても、すぐには良くなる所を、互いに忍び合い、主が変えて下さるように祈り合う。主が十字架の苦しみ、贖いで生み出された真の「平和のきずなで結ばれて」御霊の一致を熱心に保てますように！

IV 主がへりくだりこの世に来られ、十字架で死なれ復活され主を信じる人を一つとされる御目的

1. 「わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい（意見が違ってても人格を受け入れ合う一致を保ちなさい）。互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります」ヨハネ13：34, 35。キリスト者が主の愛を受けて互いに愛し合う一致の姿が、人々への福音宣教につながるということです。

2. 「父よ。あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください。…あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるようになるためです」ヨハネ17：21。キリスト者が主の愛を受けて一つになることは人々への証しとなり福音宣教につながる。

3. 皆が同じ場所に集まり祈り合う時に、御霊が注がれ、主にある御霊の一致は強まります。「皆が同じ場所に集まっていた。…すると皆が聖霊に満たされ」使徒2：1-3。

「彼らはいつも、使徒たちの教え（主の教え）を守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしてきた」使徒2：42。主の教え、みことば、交わり、聖餐式、祈りは主にある一致を保ち、強めます。

「心を一つにして宮（現代では会堂）に集まり…神を賛美し（礼拝し）、民全体に好意を持たれた。主は…救われる人々を加えて一つにくださった」使徒2：46, 47。心を一つにして集まり神を賛美し礼拝する時に、主にある一致は強まり、主は救われる人々を加えて一つにしてください。ハレルヤ！